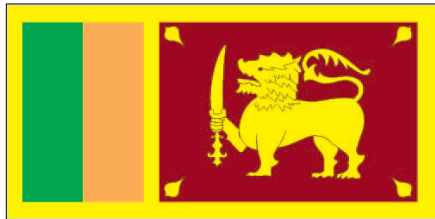


国名(日本語)	<b>スリランカ民主社会主義共和国</b>
国名(英語)	<b>Democratic Socialist Republic of Sri Lanka</b>



国名の由来	シンハラ語で「聖なる光輝く島」という意味。1948年イギリス連邦内の自治国「セイロン(ライオンの島の意)」として独立したが、1972年に「スリランカ」に改めた。
国旗の由来	剣を持つライオンはシンハラ王朝以来のシンボルで、王家がライオンの子孫だという建国神話に基づく。四隅の4枚の葉は菩提樹で、黄色と共に住民の7割を占める仏教徒を表す。左側の緑はイスラム教またはムーア人を、オレンジ(サフラン)色はヒンズー教またはタミル人を表し、宗教・民族の融和を象徴している。
1 面積	6万5,607平方キロメートル(北海道の約0.8倍)
2 人口	約2,096万人(2015年)
3 首都	スリ・ジャヤワルダナプラ・コッテ
4 言語	公用語(シンハラ語, タミル語)、連結語(英語)
5 宗教	仏教徒(70.0%)、ヒンドゥ教徒(10.0%)、イスラム教徒(8.5%)、ローマン・カトリック教徒(11.3%)(一部地域を除く値)
6 豆知識	仏教国でありながら、占星術がスリランカ人の精神的よりどころとなっている。国が定める行事や祝祭日の日時は占星術で選ばれることが多く、日常生活にも深く関わっている。子供が生まれると、運命録ともいべき占書の作成を占星術師に依頼する慣習がある。